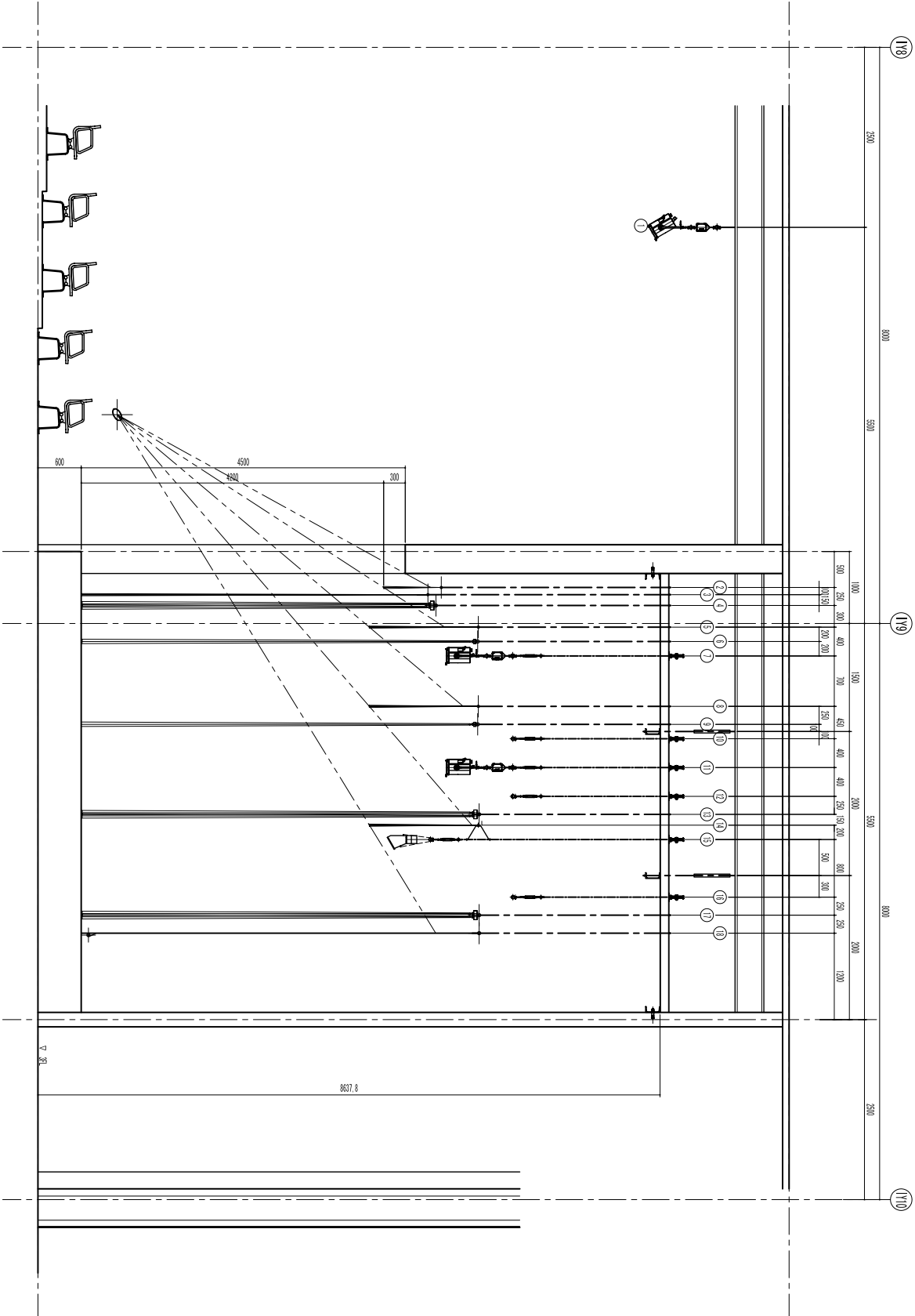
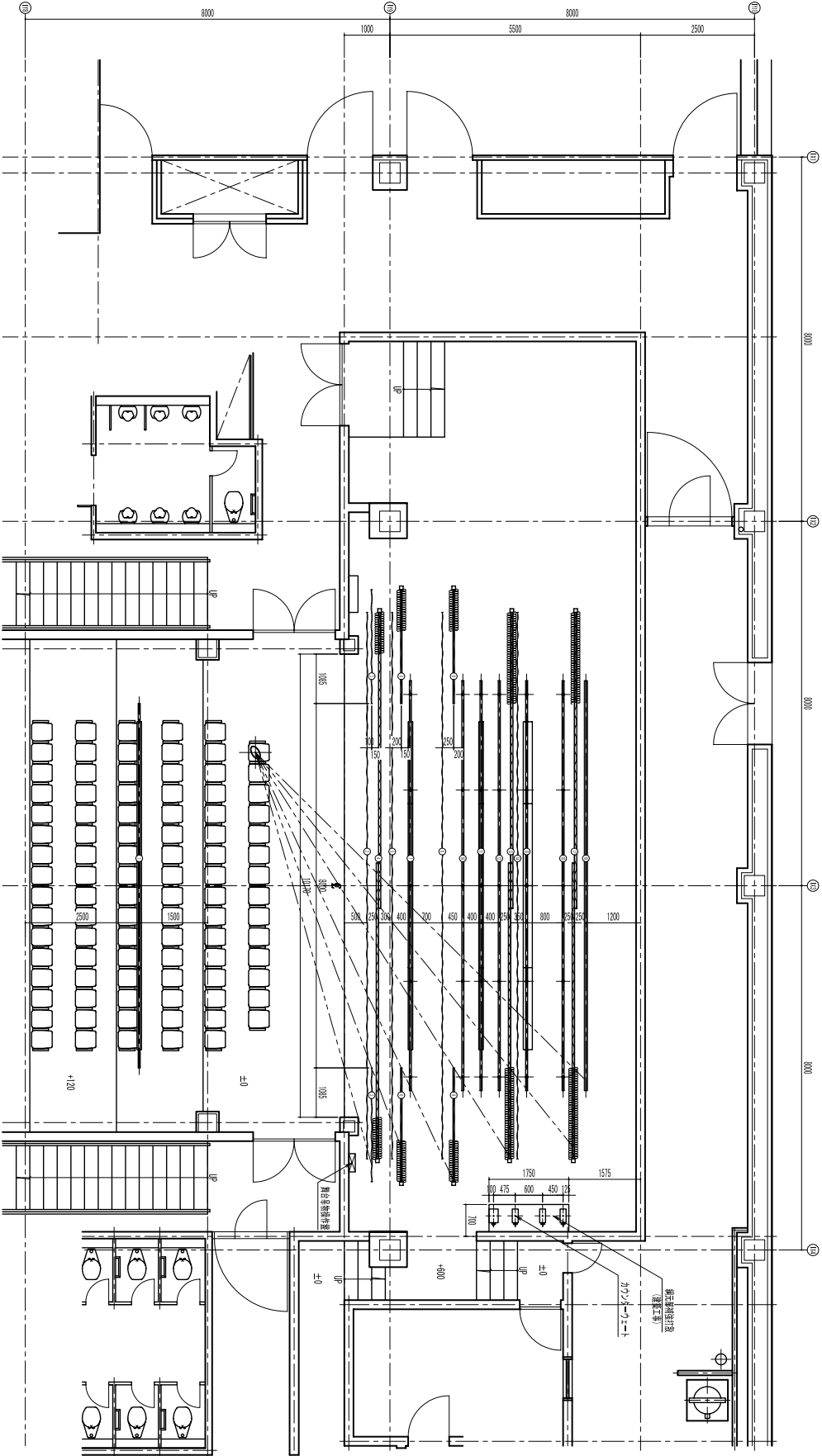


番号	名 称
1	シーリングライト
2	水引幕
3	源氏幕
4	引割幕機
5	カスミ幕 (1)
6	柚幕 (1)
7	サスベジョイントライト (1)
8	カスミ幕 (2)
9	柚幕 (2)
10	美縮パトーン (1)
11	サスベジョイントライト (2)
12	美縮パトーン (2)
13	中割幕
14	カスミ幕 (3)
15	アットホリジョイントライト
16	美縮パトーン (3)
17	バックラ幕
18	ホリジョイント幕



劇場吊物断面配置図 1/100

番号	名称
1	シーリングライト
2	水引幕
3	薙氏幕
4	引割緩衝
5	カスミ幕 (1)
6	控幕 (1)
7	サスベシヨウライト (1)
8	カスミ幕 (2)
9	控幕 (2)
10	美術パトック (1)
11	サスベシヨウライト (2)
12	美術パトック (2)
13	中割幕
14	カスミ幕 (3)
15	アッパーホリゾンタル
16	美術パトック (3)
17	バツタ幕
18	ホリゾンタル



劇場吊物平面配置図 5/100

【 舞台吊物設備仕様表 】

番号	名 称	移 動 方 式	動 力 (kw)	速 度 (m/min)	吊点数	ワイヤロープ	枝滑車	バトソ/レール寸法	許容荷重	備 考
1	シーリングライト	固定式 (パイプ吊)						バトソ 8000×φ42.7		建築工事
2	水 引 幕	固定式 (パイプ吊)			7	φ3		バトソ 12000×φ34.0		
3	廻 氏 幕	固定式 (パイプ吊)			2×2	φ3		バトソ 2500×φ34.0×2		
4	引 割 廻 幕	電動開閉 (ワイヤー巻取式)	3φ2000/0.4kw	約17.5m/min	7	φ3		レール 6500×2		
5	カ ス ミ 幕 (1)	固定式 (パイプ吊)			7	φ3		バトソ 12000×φ34.0		
6	襦 幕 (1)	電動開閉 (ロープ引)			2×2	φ3		レール 2500×2		吊材：L-60×30×10×2.3 開閉操作ロープ：クシモナ
7	サスベツジョイント (1)	電動昇降 (ワイヤー巻取式)	3φ200/1.5kw	6.4m/min	5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	320kg	
8	カ ス ミ 幕 (2)	固定式 (パイプ吊)			7	φ3		バトソ 12000×φ34.0		
9	襦 幕 (2)	電動開閉 (ロープ引)			2×2	φ3		レール 2500×2		吊材：L-60×30×10×2.3 開閉操作ロープ：クシモナ
10	美術 バ ト ソ (1)	電動昇降 (カクタタワーエート式)			5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	200kg	
11	サスベツジョイント (2)	電動昇降 (ワイヤー巻取式)	3φ200/1.5kw	6.4m/min	5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	320kg	
12	美術 バ ト ソ (2)	電動昇降 (カクタタワーエート式)			5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	200kg	
13	中 割 幕	電動開閉 (ロープ引)			9	φ3		レール 7000×2		吊材：L-135×50×20×2.3 開閉操作ロープ：クシモナ
14	カ ス ミ 幕 (3)	併 数 (パイプ吊)						バトソ 10000×φ34.0	200kg	アッパーホリゾントライトに共用
15	アッパーホリゾントライト	電動昇降 (カクタタワーエート式)			5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	200kg	
16	美術 バ ト ソ (3)	電動昇降 (カクタタワーエート式)			5	φ4	φ150	バトソ 9000×φ42.7	200kg	
17	バ ッ ク 幕	電動開閉 (ロープ引)			7	φ3		レール 6500×2		吊材：L-135×50×20×2.3 開閉操作ロープ：クシモナ
18	ホ リ ソ ン ト 幕	固定式 (パイプ吊)			5	φ3		バトソ 9000×φ42.7		
19	制 御 盤	露出形 (自 立)								3回路 制御操作のみあり
20	舞 台 操 作 盤	露出形 (壁 付)								3回路

【 幕地上様表 】

番号	名 称	幕 生 地	幕 寸 法		幕数量	台 び だ	備 考	
			W	H				
2	水 引 幕	貴 八 別 珍	1200	800	1	1.5	要地付	
3	廻 氏 幕	貴 八 別 珍	2500	4800	2	1.5	要地付	
4	引 割 廻 幕	メーカー標準品	6700	4800	2	なし	要地付	
5	カ ス ミ 幕 (1)	貴 八 別 珍	1200	1500	1	1.5		
6	襦 幕 (1)	貴 八 別 珍	2500	5400	2	1.5		
8	カ ス ミ 幕 (2)	貴 八 別 珍	1200	1500	1	1.5		
9	襦 幕 (2)	貴 八 別 珍	2500	5400	2	1.5		
13	中 割 幕	貴 八 別 珍	7000	5400	2	1.5		
14	カ ス ミ 幕 (3)	貴 八 別 珍	10000	1500	1	1.5		
17	バ ッ ク 幕	貴 八 別 珍	6700	5400	2	1.5		
18	ホ リ ソ ン ト 幕	11号 帆布	9000	5400	1	なし		

特記事項		日 付		尺 寸		工 事 名 称		留意事項	
		2020/1/19		mm Scale		サインボード 小構 (ツクリ座)		留意事項	
		製 図		製 図		劇場吊物機器リスト		E-HT-01	
		正		製 図					

1.概 要

ウイングベイ小樽 3F劇場(ヲタル座)には以下の舞台吊物設備が設置されています。

1-1)舞台吊物設備			
No.	名 称	移 動 方 式	動力 3φ200V
1	水引幕	固定吊	
2	源氏幕	固定吊	
3	引割緞帳	電動開閉(ワイヤ捲取式)	0.4kW
4	カスミ幕(1)	固定吊	
5	袖幕(1)	固定吊/手動紐引開閉式	
6	サスペンションライト(1)	電動昇降(ワイヤ捲取式)	1.5kW
7	カスミ幕(2)	固定吊	
8	袖幕(2)	固定吊/手動紐引開閉式	
9	美術バトン(1)	手動昇降(カウンターウェイト式)	
10	サスペンションライト(2)	電動昇降(ワイヤ捲取式)	1.5kW
11	美術バトン(2)	手動昇降(カウンターウェイト式)	
12	中割幕	固定吊/手動紐引開閉式	
13	カスミ幕(3)	アッパーホリゾントライト共吊	
14	アッパーホリゾントライト	手動昇降(カウンターウェイト式)	
15	美術バトン(3)	手動昇降(カウンターウェイト式)	
16	バック幕	固定吊/手動紐引開閉式	
17	ホリゾント幕	固定吊	
・	制御盤	3系統(操作は緞帳1系統のみ)	
・	舞台袖操作盤	3系統	

2.舞台吊物設備取扱注意事項

操作を始める前に必ずお読み下さい

1	取扱説明書の内容を良く理解し、操作準備をして下さい。
2	分解・改造は、保証外となりますので厳禁願います。
3	操作しようとする前に必ず周囲に配慮し、障害物の無いことを確認して下さい。 操作員 1名、確認者 1名の最低2名以上で操作願います。 部外者の立入を禁止し、昇降物の下部に、人は近寄らせないで下さい。
4	吊物操作は操作専任者を置き、他の者には操作させないで下さい。〔操作ミスによる重大事故原因となります〕
5	昇降物には絶対に人や物を乗せないで下さい。
6	吊物を動作させる時、常に周囲に配慮し安全を充分に確認し、動作させようとする吊物の周囲や下部には絶対立入禁止として下さい。 幕類等で視界を遮られる場合は誘導員を設置、又は表示を明確にして下さい。
7	ボタンに器具等を吊込・着脱作業をするときは、ボタンを台や脚立に乗せて行わないで下さい。 常に、ワイヤは張った状態で使用して下さい。更に、一点に集中荷重が掛からない様に、分散吊込みをして下さい。
8	あらかじめ設定された積載重量範囲内で使用して下さい。
9	ボタンには、吊物をむやみに追加させること無く、設定重量以内で使用して下さい。 〔昇降機の故障、ワイヤ切断、落下事故の重大原因となります〕
10	動作させるときは必ず一機ずつ動作させ、完全停止したことを確認後、順次動作させて下さい。
11	操作(電動)を行うときは、各々のスイッチ釦を押しますと動作に入りますが、万一に備え停止釦を即押せる様、完全停止するまで監視し、操作盤から離脱の厳禁。 操作しようとする吊物の全てが、終始監視できる環境で操作して下さい。
12	操作中に異常と思われたときは、即座にその動作を停止させ原因を解明し、不明の場合には、速やかに弊社まで連絡願います。
13	ボタンに吊込・取外しをしない時は、むやみにバランスウェートの追加・取外しを行わないで下さい。 アンバランスによる重大事故の原因となります。
14	バランスウェートを追加させる時は必ず方向を確認し、左右より交互に追加して下さい。 事故防止の為追加したウェートは、終了後必ず器具を取り外し、元の積載量に戻して下さい。 常にバランスを1:1に保ち管理して下さい。
15	バランスウェートを追加・減少作業後は、必ずバランスウェート外れ防止金具をウェートに密着させ、固定ボルト(蝶ボルト)強固に締結させて下さい。
16	ウェートホルダーには、絶対に専用のバランスウェート以外を乗せないで下さい。
17	綱元フェンスの出入口は施錠等をし、むやみに部外者が立ち入らぬよう管理して下さい。
18	幕の開閉動作を始める前に、必ず表・裏側を充分に確認して下さい。更に、幕の進行方向にも充分配慮して下さい。 幕地は裂けやすいので、取扱は丁寧をお願いします。
19	震災等の天災発生時は、速やかに専門技術者による点検を実施願います。
20	使用状況、運用態勢に応じた保守点検を定期的に専門技術者により実施し、それに基づく整備を行い、信頼性と安全性を向上させ、常時良い状況を保持し運用願います。

3.操 作 方 法

3-1)電動昇降、開閉装置

{ 引割綴帳、サスペンションライト(1)、(2) }

1	まず始めに注意事項を確認し良く理解して下さい。
2	吊物制御盤表面の受電灯が、点灯している事を確認して下さい。 (1次側電源が『入』或いは『ON』になっていないと操作出来ません)
3	吊物機構制御盤内の『配線遮断器』『電動機用配線遮断器』『サーキットプロテクタ』等の全てを、『入』或いは『ON』側にして下さい。但し、前記のものに加え、1次側電源の吊物電源は常時『ON』で使用して下さい。 工事完了後受け渡し時には全て『入』或いは『ON』になっております。
4	吊物機構操作盤の電源キースwitchを『ON』にして下さい。 電源表示灯が点灯しましたら操作可能となります。
5	昇降させる吊物の周囲 下部に障害物が無いことを充分に確認して下さい。
6	任意の『△・▽』の押釦switchを押して下さい。一度押釦switchを押すと、操作中の押釦switchとのパイロットランプが点灯し、動作中を表示します。 スイッチから手を離しても、あらかじめ設定された所定の位置まで動作し、昇降機内リミットスイッチが働き自動停止させる機構になっております。 停止すると動作中の押釦switchのパイロットが消灯します。(『S』釦で停止されても同様)
7	動作途中で逆動作を行うときは、必ず一旦『S』押釦switchで完全停止させた後、再度操作して下さい。 非常停止switchで停止させた場合は、吊物機構全ての電源がカットされ操作できない状態になります。 リセットは、非常停止switchを右に回して下さい。

3.操 作 方 法

3-2) 手動昇降装置(カウンターウェイト式)

{ 美術ボタン(1)、(2)、(3)、アッパーホリゾントライト }

1	注意事項を良く読み、理解した上で操作願います。
2	前後の引ロープ(マニラ)を交差させ、両手でしっかりと固定します。
3	床滑車のロープストッパーハンドルをゆづり『左』に回転させ緩めます。
4	引ロープの交差を徐々に解除させます。 この時にバランスの状態を感じ取って下さい。 ウェイトと吊物がアンバランスの時は、引ロープがいずれかに強く引かれますので、バランス調整を必ず行って下さい。 手前側のロープを引き下げると、吊物は下降し奥側のロープを引き下げると上昇します。
5	任意の位置で停止させ、再度引ロープを交差し、片方の手で床滑車のハンドルを『右』に回転させて、しっかりと固定して下さい。
6	ボタンに器具等を吊込・取外しを行った時は必ず、バランスウェイトの吊込・取外しも行って下さい。 (常にバランスは 1:1)

3-3) 手動開閉装置

{ 袖幕(1)(2)、中割幕、バック幕 }

1	操作する幕の周囲に、障害物が無いことを確認して下さい。 特に、裏側・幕の進行方向も十分に注意し、確認願います。
2	開閉ロープが異常なよじれや、絡みが無いことを確認して下さい。
3	次に、開閉用引ロープを右手で引き、左手でロープを送り込む要領で開けて下さい。 開閉共に、ストッパーがついておりますが、過度な衝撃を与えると外れ、故障や事故の原因となりますので、適度な速さと強さで操作願います。
4	長期にわたり幕を、束ねたままで放置しないで下さい。 生地によって、折り癖 部分変色が発生しますので注意願います。
5	幕生地 砂袋 開閉紐等には絶対にぶら下がらないで下さい。 幕地は想像以上の重量があります。裂け落ちると大事故につながりますので、絶対にしないで下さい。

4.吊物積載荷重表

No.	名 称	許可積載荷重
1	サスペンションライト(1)	320kg 以下
2	美術バトン(1)	200kg 以下
3	サスペンションライト(2)	320kg 以下
4	美術バトン(2)	200kg 以下
5	アッパーホリゾントライト	200kg 以下
6	美術バトン(3)	200kg 以下
※ 安全にお使い頂く為に、バトンには上記以上の荷重を絶対に吊らないで下さい。 ※ ウェートバランスを必ず守って下さい。 ※ バトンに物を吊る時は、確実にバトンに固定して下さい。 ※ バトンの昇降中は、必ずその下に人がいない事を確認して下さい。		